

第1学年 道徳科学習指導案

令和5年10月4日（水）第5校時

- 1 主題名 立場の違いを受け入れる 内容項目【 B 相互理解、寛容 】
- 2 ねらい 立場の違う考え方について話し合うことを通して、人それぞれにもの見方や考えに違いがあることを理解し、様々な意見を取り入れて学び合う心を育てる。
教材名 「言葉の向こうに」（出典：「私たちの道徳」文部科学省）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」に関するものである。

他者と人間関係を築き、相互理解を図るためには、自分の考えや意見を発信して他者との考えに差異があることに気付くことが必要である。自分のもの見方や考え方を広げて確かなものにしていくために、互いのもつ異なる個性を認めて取り入れる謙虚さを他者との学び合いの中で身につけさせたい。

指導に当たっては、個性とは何かについて理解を促すとともに、多様な個性を認め、自分の考えや意見を伝え、互いの個性や立場を尊重することの大切さに気付かせる。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

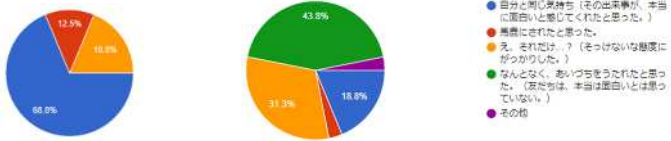
(略)

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公の加奈子はインターネットでヨーロッパのサッカーチームのA選手のファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心ない書き込みが続いたことに怒った加奈子は、自分もひどい言葉で応酬し注意されてしまう。インターネット上での言葉のやり取りの難しさに直面した加奈子だったが、「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という言葉から、言葉の受け取り手の存在を忘れてしまっていた自分に気付く、という資料である。ねらいに迫る方法として、①ロールプレイを通して、それぞれの立場から考え、いろいろなもの見方や考え方があることを理解させる。②加奈子の発見した「すごいこと」について考えを深め、他者から学ぶ姿勢に気付かせる。

また、普段の生活におけるコミュニケーションの在り方へと考えを深めさせ、互いの個性や立場を尊重することの大切さを見いださせたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点☆評価の視点	時間
導入	<p>1 事前学習をもとに行なったアンケートから、SNS 上でのやりとりについて振り返り、課題意識をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな受け取り方がある。 ・人によって、伝わり方や受け取り方に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に行なった情報モラルで学習した内容を確認して、生徒に実態を把握させる。 	2分
<p><u>アンケートを用いた導入</u></p>  <p>●自分と同じ気持ち(その言葉が、本当に面白いと感じてくれたと思った。) ●罵詈雑言にされたと思った。 ●え、それだけ? (そっけない態度にがっかりした。) ●なんとなく、悪い気持ちになったと思った。(加奈子は、本当に面白いとは思っていない。) ●その他</p> <p>本時の課題：異なる意見の相手から学ぶために大切なことはなんだろう。</p>				
展開	<p>2 教材「言葉の向こうに」を聞き、話し合う。</p> <p>(1)批判的な書き込みをみたとき、加奈子はどよう思っただろうか。</p> <p>(2)ロールプレイを通して、それぞれの立場から意見を主張し、解決するための方法を考えよう。</p> <p>《補助発問》 どうしたら、相手に上手く気持ちを伝え、解決することができるだろうか。</p>	<p>A が批判されているとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負け惜しみだ、悔しい <p>自分が批判されているとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何で私が…、おかしい <p>加奈子 (A を擁護派)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負け惜しみだ、腹立たしい。 <p>反対派 (A を非難派)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何も分かっていない、わがまま。 <p>慎重派 (加奈子を非難)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういう言い方はよくない。 ・言い争っても解決しない。 ・自分の言いたいことだけを言ってもうまくいかない。 	<p>(1)黒板に掲示して、加奈子の気持ちの変化を理解する。</p> <p>(2)3～4人グループを組み、加奈子(Aを擁護派)、反対派(Aを非難派)、慎重派(加奈子を非難)役の3つに分かれ、それぞれの立場から意見を主張する。ロールプレイ後、それぞれの立場から考えたことを発表させ、異なる立場の考えを理解させる。</p>	<p>範読 10分</p> <p>(1) 5分</p> <p>(2) ロー ル プ レ イ 5分 + 入 力 3分 + 発 表 5分</p>

ねらいとする道徳的価値について迫るための活動
「ロールプレイ（役割演技）で様々な視点に立つ」



話し合い活性化のため、男女市松模様の座席配置。

3～4人班で、それぞれの役割に分かれてロールプレイ（役割演技）を行う。様々な視点から考えることができ、多面的・多角的に捉えさせる。

ロールプレイを通して、気づいたことをタブレット端末を活用して立場ごとに付箋の色を分けて入力する。

- ・加奈子（ピンク）
- ・反対派（青）
- ・慎重派（黄色）
- ・傍観者（緑色）

加奈子（Aを擁護派）

- ・相手の考えを聞こうとしないと、相手の気持ちが分からない。

反対派（Aを非難派）

- ・言い方が良くない。相手に聞いてもらえるように言い方を工夫する。

慎重派（加奈子を非難）

- ・加奈子の気持ちを受け止めてから、自分の言いたいことを言う。

☆様々な立場の考えや気持ちを捉え、考えの異なる立場の人との関わり方を考えている。



(3) 【中心発問】

加奈子が気づいた「一番大事なこと」とは何か。




《考えを深める問い返し》

様々な意見を取り入れながら成長するには、どのようなことが大切か。

- ・一方的に言うのではなく、相手の考えも聞きながら話したい。
- ・自分と相手以外にも、聞いている人が嫌な気持ちにならないように考えたい。

(3)考えたことをタブレット端末に入力させ、全体で共有できるようにする。（個別学習後、共有する。また、入力内容は匿名とする。）

(3)個人5分＋全体5分

	<p><u>自分の考えを整理して書く活動→全体で共有する活動</u></p> <p>タブレット端末の利用</p> 	<p>個や少人数で考えたことを全体で共有することができる。他の考えと比べて、自分を振り返ることができる。</p>	
<p>3 自己を見つめる。 本時を振り返って心に残ったことや考えたことを道徳のワークシートに記入する。</p>		<p>☆自分の体験と重ねながら、様々な立場からものごとを捉え、他者から学ぶ姿勢について考えを深めている。</p>	<p>7分</p>
<p><u>自分を見つめて書く活動</u></p> <p>①「今までは…」これまでの考え方 ②「今日の学習を通して…」本時を学習して分かったこと ③「これからは…」今後の生き方について</p> <p>3つの視点から本時を振り返ってワークシートにまとめる。</p>  			
<p>終末</p>	<p>4. 教師の説話を聞く。</p> <p>お客様の苦言を生かして商品開発したことから成功した事例をいくつか紹介し、異なる立場に立って考え、学ぶ姿勢の大切さを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心に柔らかく届くように余韻を残す。 ・実例を知ることで価値を一般化させる。異なる立場に立って考え、理解し、より成長しようとする意欲を高めさせる。 	<p>3分</p>

5 他の教育活動との関連

特別活動	・非行防止教室「スマホ・携帯安全教室」 スマホの正しい使い方やSNS上のやりとりのリスクについて学習した。
国語	・教材名「少年の日の思い出」 様々な登場人物の心情を読み取り、立場の違う人の考えを認められる心を育む。
事前指導	・学活の時間にアンケートを実施し、「伝え方や受け取り方」について生徒の実態を把握する。
道徳科	・教材名「言葉の向こうに」 立場の違う考え方について話し合うことを通して、人それぞれにもの見方や考えに違いがあることを理解し、様々な意見を取り入れて学び合う心を育てる。
事後指導	・帰りの会で、学級通信に掲載された生徒の感想や私たちの道徳の人物探訪を読み、他者から学ぶ姿勢を養う。
家庭との連携	・本時の授業内容や生徒の感想等を学級通信で紹介し、家庭でも他者に学ぶ姿勢や寛容の心を持つことについて話題にしてもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ロールプレイを通して、主人公やA選手を批判する人、それを傍観する人など様々な視点から捉え、立場や考えが異なる人との関わり方について考えを深めている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・本時の内容を振り返ったり、自分の体験と重ねたりしながら、様々な立場からものごとを捉え、他者から学ぶ姿勢について考えを深めている。

7 板書計画

